

国際日本学部 2023 年度夏期 海外ボランティア・プログラム

参加報告書（インドネシア・ブディルフル大学）

① 本プログラム参加のきっかけ・目的について（200 字以上）

私がこのプログラムに応募したのは、国際交流したかったからだ。これまで海外へは家族か友達との旅行でしか行ったことがなかったため、現地の人と英語を使ってコミュニケーションをとったことはなかった。また東南アジアについて興味があったが、訪ねたことはなかったので挑戦してみようと思った。さらに実際に海外へ行き「海外から見た日本」を知ることは、今後留学先や日本で外国人と関わっていく上で役に立つと感じた。

② プログラム内容について（各項目 200 字以上）

1. ボランティア活動・ワークショップについて

ボランティア活動としてインドネシア人と文化交流をした。ブディルフル大学内で、中学生・高校生向けに日本文化を学べるワークショップを開催した。そこでは浴衣を着用しながら、木目込み、カタカナ、日本語、折り紙、たこ焼きの作り方を教えた。カタカナの時間には習字で日本文化に触れてもらった。折り紙で作った名札をプレゼントしたところ、非常に喜んでくれた。また現地の高校でも同じようなワークショップを実施した。参加してくれた生徒とはアニメやゲームなどの話をして、より交流を深めた。

2. 授業（インドネシアの歴史や文化、インドネシア語）について

インドネシアでは4種類の授業を受けた。1つ目はインドネシア語で、日常会話で使えるフレーズを学んだ。例えば、挨拶、「食べる」「欲しい」などの動詞、「楽しい」「幸せ」といった感情を表す表現だ。2つ目はダンスで、この授業では最終日のフェアウェルパーティーの準備として、インドネシアのダンスを学んだ。本番はインドネシアの伝統衣装を身に纏って披露した。3つ目は歌である。この授業でもフェアウェルパーティーの準備の一環としてインドネシア語の歌を覚えた。これらの授業を通して、インドネシア文化に対する理解が深まった。4つ目はクッキングの授業で、教授らに教わりながらインドネシア料理のお弁当を作り、大学の前で道ゆく人々に配った。また日本人学生のみでメニューを考え、日本食のお弁当を作った日もあった。宗教のことを考慮したり、現地の方の口に合うよう工夫するのが難しかった。

3. フィールドトリップ（バンドンツアー）について

バンドンのホテルに一泊した。1日目の夜に周辺を散策すると、ハロウィーンイベントのように仮装した人が路上に多くいた。彼らの目的は観光客と写真を撮ってチップを稼ぐことである。私たちもチップを支払い、何枚か写真を撮ってもらった。また街中では多くの絵画を見かけ、それはバンドンのお洒落な雰囲気と合っていた。2日目は楽器の生演奏とともに上演される人形劇と、子どもたちによるインドネシアの伝統舞踊を鑑賞した。同じインドネシアでも地域ごとに衣装・踊りに違いがあって興味深かった。特にバリの踊りのキレが印象的だった。

③ 本プログラムを終えての学習成果・感想（200字以上）

今回のプログラムを通して日本とインドネシアの違いを実感した。特にインドネシア国内での経済格差が顕著であることに衝撃を受けた。チップをもらうために交通量の多い道路で着ぐるみを着ている子どもや、ボロボロの家を頻繁に見た。一方で、日本の一般的な家よりも大きな庭付きの家もあった。これらのエリアははっきりと分かれているわけではなく、今まさに「発展している」国を実際に見ることができた貴重な機会となった。問題を目の当たりにしたことで、日本の政治だけでなく様々な国際的動きに対する関心もより大きくなった。また現地の生徒や教授とのコミュニケーションの中で文化の相違点や類似点を発見することができ非常に面白かった。特に日本のポップカルチャーの話題で盛り上がり、自分の国を知ることの大切さが分かった。

④ 現地での生活等について（今後参加する学生へのアドバイス含む）

1. 滞在先の治安・キャンパス・施設について

バディや先生たちと一緒にいたこともあり、治安について不安に感じることは無かった。寮は毎日清掃員が清掃してくれるところが良かった。しかしトカゲやゴキブリが頻繁にでたこと、トイレ・浴室があまり綺麗でないこと、洗濯機がないこと、リビングにエアコンがないことは残念だった。ランドリーはショッピングモールのよりも寮から徒歩で行けるところが良かった。

2. 食事について

食べさせてもらえる食事はどれも美味しかったが、朝ご飯の量が多かった（朝ご飯と昼ご飯の時間が近い日が多かった）。米ばかりでパンが恋しくなった。インドネシア料理はどれも味が似ていること、油っぽいことから、日が経つにつれて喉を通らなくなった。夜ご飯を各自で食べる日は、インドネシア版Uber Eatsを利用し、食べたいものを食べるのが良いと思う。日本から持っていくといいと思ったものは、ふりかけ、お茶漬、味噌汁、そうめん。

3. 交通手段について

毎朝寮に送迎バスが来てくれるので快適だった。タクシーも安いから便利。

4. 通信環境について

寮にWi-Fiがあったが、部屋によって繋がる場所と繋がらない場所があった。私の部屋は繋がらなかったため不便だった。

5. 買い物事情について

寮の近くにコンビニとスーパーマーケットがあった。また希望すれば学校帰りにショッピングモールに連れて行ってくれたので、そこまで困ることはなかった。しかし中には消費期限切れの商品もあったので注意が必要だった。物価が安いので基本的に値段を気にせず買うことができる。

6. 医療事情について

大気汚染が原因で目が腫れたので、眼鏡かサングラスを持って行って目を保護した方が良い。現地でロートの目薬アイボンみたいなやつを使えばすぐ治る。日本で入った保険のラインで相談できるサービスをなぜか使うことができず焦った。おそらく日本人とインドネシア人の違いから、教授はあまり積極的に病院に連れて行こうとしないので、行きたいなら「病院に行きたい」ときちんと主張する必要がある。

7. その他、生活等に関して参考となることがあれば教えてください。

シャワー室の床に足をつく気にならないので、館内用のサンダルをはきながら入ると良いと思う。インドネシアの方がレートが良いため、現地で両替することをお勧めする。

以上